FIWC 関東
Friends International Work Camps
関東委員会
with S.C.I. (Service Civil International) Japan

定例委員会報告

2001.5

参加者：中村博志、佐野一矢、浅利絵里香、高津阿礼、佐塚あゆみ、服部雅行、鳥居厚志、李良文、笠眉彦、目黒美穂子、豊田兼宇、中元則子、河田幸子、大藤公一、峯岸直廣、田中宇宙、宮本秀樹、小林武史、藤沢眞人、茂木亮　以上20名

2001年5月19日(土)目黒鍼療院にて。

司会：中村博志

FIWC関東委員会の呼びかけで、SCI-Japanと合同で行っています。

活動報告

耶馬渓キャンプ（FIWC）

2001.4.28～5.6　大分・耶馬渓

大分の耶馬渓で農業をしている、FIWCのOBの鈴木さんと、その近所の荒牧さんやいっさくさんにお世話になりながら、援農キャンプをしました。関東や関西から24人が集まり、大にぎわいでした。例年、ゴールデンウィーク、夏休み、秋の稲刈りシーズンにキャンプをしています。

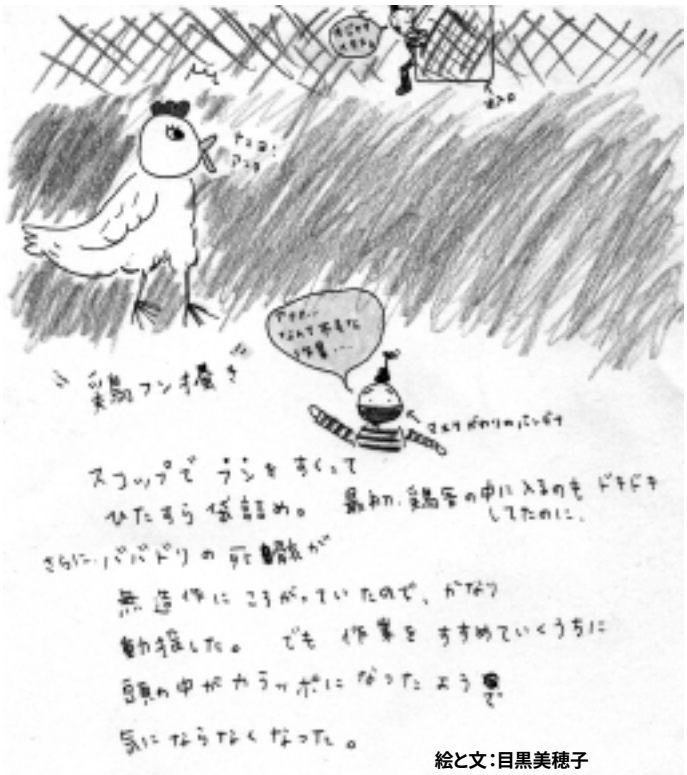
春のワークは、田植えの準備という大仕事があります。まず、稲の苗床づくり。山から土を採ってきて、種をまきます。そして、肉体労働派がいい汗流す、田んぼのくろうち（鍬を入れてあぜを作る）。耕耘機やトラクターで歌を歌いながら、のんびりと、しろかき（水を張った田んぼを掘り起こす）。あぜに生えた雑草の草刈り。荒く刈ったあと、仕上げにもう一度刈る（職人肌）。これらが、主な田んぼの準備。

そのほか、夏野菜の苗を畑に植えたり（定植）、自分たちのご飯のおかずになる野菜を収穫。ニワトリの玉子ミガキ。雨の日はニワトリ小屋で鶏糞の袋詰め（メグねぇの絵を参照）。マキ割りなどなど。

耶馬渓には、たくさんの動物がいます。犬数匹、馬のアグリに、ヤギのメェちゃん。この春に子ヤギが4匹誕生。まわりの山々には鹿や猪が・・。いっさくさんが取ってきた鹿や猪や、近くの山国川でとれたというカニなどをごちそうになりました。

おいしい山の幸を口にし、土と緑に触れながら汗を流し、温泉で疲れをとり、夜はお酒を飲みながら語り合ったりと、耶馬渓は本当に楽しいところです。

茂木 亮



絵と文：目黒美穂子

FIWC関東定例委員会報告

多磨全生園　お花見

2001.4.7　東京・多磨全生園

多磨全生園で花見会が行われました。まるで映画のワンシーンの様な桜吹雪の中、FIWCのOB、OGを中心に、森元美代治さん・美恵子さん夫妻を囲んで、約20名程の参加者が話しに花を咲かせました。OB、OGのパワーに圧倒されつつも、FIWCが伝統的に受け継ぐ良い意味でのアマチュアリズム、自由な気風を再確認でき、そのしなやかな感性に共感を覚え、勇気を与えられたことを感謝したいと思います。

　都内では考えられないほど伸び伸びと育った桜の木々の下、花びらが永遠の時を刻むかのように、いつまでも舞い落ちていました。

笠 眉彦

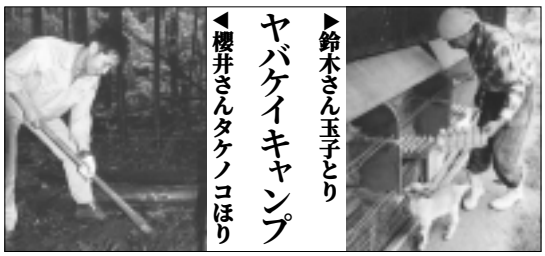
山梨キャンプ（SCI-Japan）

2001.5.3～5　山梨小杉農場

第一回中央委員会と共に、昨年来懸案であったリーダーシップ・トレーニング・キャンプを再開。13名の老若男女が集まって、新緑とりんごの花に囲まれた小杉農場で2泊3日じっくりと話し合いました。バングラ、ネパールの新鮮な経験を土台に、30年余の古参メンバーの経験と知識を織りまぜて、ワークキャンプ運動についての理解を深めるキャンプでした。（報告書あります。）

　今後も、キャンプの実践の中から出る様々な課題を取り上げて、小さなワークショップを重ねていきます。

中元則子



ヤバケイキャンプ

▶鈴木さん玉子とり

◀櫻井さんタケノコほり

今後の活動予定

韓国キャンプ（FIWC関東）

2001.8.4～15（日本出発8.3）

FIWC関東と韓国外国大学の「ハナへ」との日韓合同ワークキャンプは、ここ数年呼びかけをしていませんでしたが、韓国キャンプの経験者が集まり、今年から再開しようということになりました。この週末に松本譲さんがハナへとの打ち合わせのため、韓国に行っています。また、6月中旬にはキャンプの受け入れ先となる村への下見に、初参加者の大学生、女性2名が韓国へ行きます。来年以降にも続けて行きたいと思っているので、興味のある方は一緒に関わっていきましょう。

詳しくは同封のチラシをご覧ください。

メーリングリスト開設！　workcamp2001@mognet.org

茂木 亮

長島愛生園夏祭り“チンドン隊”!

2001.7.31　岡山・長島愛生園

昨年の愛生園夏祭りでのチンドン隊。納骨堂前。

今年も岡山のハンセン病療養所「長島愛生園」の夏祭りがやってきます。園内の病院、各家庭を訪問し、にぎやかに練り歩く“チンドン隊”を結成して、夏祭りに参加しています。今年で4回目。当日はFIWCだけでなく、様々な団体、地元の人たちが、療養所のある長島という瀬戸内海の島にやってきます。普段は静かな長島で

すが、この日は多くの人でごった返し、露店なども出て、にぎやかな雰囲気に包まれます。夕方からは花火大会も行われ、船の上から打ち上げられる花火に酔いしれることうけあいです。昨年は30名程が“チンドン隊”に参加しました。三線（サンシン）、吹きもの（フルート・クラリネットなど）、鳴りもの（チャンゴ、太鼓、鐘）などの音楽隊と共に、好き勝手に踊りまくるダンサーチームが奇妙きてれつな格好（一部？）と相まって、チンドンの雰囲気を大いにもりあげました。とても一夜漬けとは思えない抜群のチームワークの下、当地で療養している元患者さんたちと本当のコミュニケーションがとれたのでは、と思える素晴らしい体験ができました。

年に一度のまつりだからこその、この体験を、今年はあなたが味わってみませんか？

まつりの前後日の宿泊は療養所の近くに住むキャンパーの松田さんの家や光明園の宿舎を利用させていただくことになります。人数等の調整が必要なため、参加したい方は、6月末までに連絡をお願いします。

笠眉彦

東日本連絡先

茂木 亮

西日本連絡先

松田浩江

フィリピンキャンプ（FIWC関東）

2002年 春　フィリピン

現段階では夏に下見をし、春にキャンプ開催を、と考えています。私は前回の参加が初めてで、経験は浅いのですが、キャンプ経験者の方や仲間のアドバイスを参考にしながら、キャンプが有意義なものになるよう企画、運営に携わっていこうと思っています。

佐野一矢

八王子平和の家　夏祭り

2001.7.28　八王子平和の家

恒例の夏祭りがあります。知的障害のある人が住んで、働いている施設ですが、毎年沢山のボランティアが集まり、パワー炸裂する刺激的なお祭りです。この施設を見学するだけでもなかなかよいところです。

昼前から20時くらいまで。お弁当やビールがもらえます。フランクフルト焼きなどのお祭り要員や入所者の相手など、仕事がいろいろあります。ぜひご参加を。事前に参加者を伝えるので、浜島まで連絡してください。

浜島恭子

あっちこっちの会

江戸川区あたりで、心の病の10～20代の人が集まるための会を発足します。

自分は心の病で病歴10年を迎えようとしています。10年前に保健所という存在を知りました。自分はこの時不安でした。この先どうなるんだろう？　苦しみの中、保健所に相談してみました。

「自分と同じ状態で良くなった人を紹介してくれませんか？」と聞いてみました。そうしたら断わられてしまいました。その当時は中学3年生の冬でした。高校1年生の時は家に引きこもってしまい、1年間休学をしました。このころは作業所や会などがあまりなく、また偏見も強かったです。ちょっとでも気軽に行ける所があればいいのになと強く思っていました。そういうことがあったので自分で企画してみたいと思いました。

今は悠遊舎，悠歩舎という作業所に通っていますが、若い人どうしで話すという機会がなかなかありません。そこで似たような苦しみをお互いに話し合ったり、少しずつわかりあったりという事をこの会でできればなと思います。

内容はこられた方により「あっちこっち」かわります。この会に関心のある方は是非ご連絡ください。ただ

FIWC関東定例委員会報告

し飲酒による来訪はここの喫茶席での決まりで、入れませんのでよろしくお願いいたします。

日時：2001年4月から第1と第3月曜日 15:00～17:00

場所：親と子の談話室「とぽす」Tel: 03-3656-9224

会費：500円（ドリンクつき） 対象：10代～20代の方

主催：「あっちこっちの会」　責任者：峯岸直寛

峯岸直寛

インドキャンプ（SCI-Japan）

SCIインド支部は、インド西部地震で最大の被害を受けたグジャラート州の村で、復興に向けての支援活動を始めています。長期プロジェクトとして、2教室をもつ学校とコミュニティーセンターを兼ねた建物を建設し、危機管理、ボランティア意識の啓蒙、怪我人の世話、子供たちのデイケアなどを計画しています。

SCI-Japanはボランティア、キャンパーを送るなどしてこのプロジェクトに関わりながら、また郵貯のボランティア基金の配分を申請して学校の建設資金の確保することを進めています。

ネパールキャンプ経験者の奥村浩毅さんがコーディネータとなります。テント生活になりそうなので、体力に自信のある人が望ましいです。

ネパールキャンプ（SCI-Japan）

前回参加の小野浩平さん、岩上真弓さんが中心となってSCIネパールと連絡を取りながら、来年2～3月に計画しています。仕事は昨年の続きで「学校建設」になる予定です。今年は人数を絞ってより、緊密なコミュニケーションと中身の濃いキャンプを狙っています。

バングラデシュキャンプ（SCI-Japan）

現在バングラデシュでLTV（長期奉仕者）として活動している平山さんと連絡をとりながら、SCIバングラデシュと密着したキャンプを計画する予定。日程などは未定。キャンプ日本側チームリーダーを引き受けてくれる人はSCI事務局までご連絡を下さい。

韓国キャンプ（SCI-Japan）

（1）2001.7.13～19、（2）2001.7.19～29

SCI韓国では、2つの国際キャンプを開催します。

他から取り残されたような農村地域で、学生が中心の援農キャンプを行います。ヨーロッパのSCI支部からの参加申し込みもあり、国際キャンプとして計画されています。

小杉農場キャンプ（SCI-Japan）

2001.8.2～16　山梨・牧丘町　小杉農場

ワーク：森の中のデッキつくり、受入定員：15～20人

昨年までに「ほっとけ小屋」と動物飼育のための「柵づくり」はほとんど完成し、今年は「動物ウォッチ」のための小屋作りを始める予定です。

昨年は暑い炎天下の作業で大変でしたが、今年は林の中の作業が多く、森林浴をしながらのキャンプになりそう！心身共にリラ～ックス！

現在までの海外からの申し込みは韓国、ドイツ、ポーランド、スペイン、アメリカ、ネパールです。

浜松キャンプ（SCI-Japan）

2001.8.11.～25　浜松ブラジル学校

ワーク：校庭の整備・校舎の修理など

テーマ：多文化共生、教育

浜松には大勢のブラジル人二世、三世が働きに来ていますが、親の世代は仕事に忙しく、子供の面倒を十分に見る時間がありません。初期の頃、日本の学校に馴染みにくい子供達のうち、学校に行かなかったり、非行に走ったりする子供が出てきました。それを憂いたブラジル人が「子供の居場所」を作ったの

が学校の始まりです。日本国の認可を受けていないので財政的に苦しい経営を強いられています。その学校の校庭整備や校舎の補修です。

SCI-Japan
豊田 兼宇・素子

ハンセン病国家賠償訴訟

ハンセン病国家賠償請求訴訟・西日本訴訟で原告勝訴!

5月11日熊本地裁で、ハンセン病・国賠訴訟の判決が言い渡されました。裁判所は国・旧厚生省（現厚生労働省）の責任を認め被告・国に対して原告に損害賠償するように命じました。

ハンセン病国賠訴訟とは、らい予防法（1996年廃止）のもとで強制隔離され人権を侵害された元患者たちが、国の政策は誤りであったとして、国に対し謝罪や損害賠償などを求めた訴訟です。熊本地裁、東京地裁、岡山地裁で裁判が行われていて今回は熊本地裁で判決が下されました。

国・旧厚生省のハンセン病政策は誤りだったと認めた判決を詳しく見ると、らい予防法についてはその隔離規定について、1960年以降は合法性の根拠を全く欠き違憲性が明白になっていたと指摘しています。また1965年以降に隔離規定を廃止しなかった国会議員の不作為（職務怠慢）についても違法性と過失を認めました。国が過去20年以前については「除斥期間」が適用され、原告の請求権はないと主張していた論点については「除斥期間の起算点は法廃止時（1996年）」として国の主張を退けました。

ところで国はこの判決を不服として控訴する方針だと報道されています。ここで控訴することは、今までと同じ人権侵害を今後も続けていくことであり、原告らから司法救済を受ける権利さえ奪う暴挙です。この判決が確定し一刻も早く全面解決するよう、国に控訴しないよう要請してください。国の控訴期限は5月25日です。原告は5月21日も厚生労働省まえなどで控訴阻止の行動を行っています。

小泉総理大臣、坂口厚生労働大臣、森山法務大臣に控訴しないようファックス・メールを送ってください。

内閣総理大臣 小泉純一郎 Fax: 03-3595-2020
首相官邸ホームページ http://www.kantei.go.jp/
厚生労働大臣 坂口 力 Fax: 03-3595-2020
e-mail: www-admin@mhlw.go.jp
法務大臣 森山 真弓 Fax: 03-5511-7210
e-mail: webmaster@moj.go.jp

国が控訴した場合はぜひ抗議のFAX・メールをお送りください。

青山哲也

意見交換・ほか

テレビ「ハンセン病訴訟・何が問われたのか」

2001.5.28・29 22:00〜22:45 NHK教育 ETV2001
国が敗訴した熊本地裁のハンセン病国家賠償請求訴訟。様々な資料や証言によってハンセン病政策をめぐる戦後史の闇に光をあてる。
5.28（月）前編 こうして隔離政策は続けられた
5.29（火）後編 どう尊厳を回復するのか

鶴見俊輔さん講演会（ハンセン病資料館8周年記念講演会）
2001.7.1 13:00〜 多磨全生園コミュニティセンター
期日：2001年7月1日（日）13:30から
（入場無料です）

日本チェルノブイリ連帯基金 報告会
2001.6.30 13:30〜17:00
4月26日でチェルノブイリ原発事故から15年。汚染のひどかったベラルーシでは、今なお放射能災禍に苦しんでいます。日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）が現地の様子を報告し、環境や命について考える講演会。
場所：代々木オリンピックセンターセンター棟403号

FIWC関東定例委員会報告

講演：鎌田實、スライドレポート：神谷さだ子

座談会：本橋成一、阿木幸男、鎌田實

主催：日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）

連絡先：Tel: 03-3227-1405（ポレボレタイムス社）

阿木 幸男

渋川ロマンス

7月の定例会を渋川ロマンスで行おうという提案がありました。渋川ロマンスとは1970か80年代にFIWC関東委員会が建設した建物の名前で、関東の交流の家という話も聞いたりしますが、詳細は不明です。現在も管理している方がいて、泊まり込みでの会合ができます。しかし、ちょっと遠いので7月の定例会での利用はやめて、今後ワークキャンプの事前合宿や、勉強会で使わせてもらおうということになりました。近くに温泉もあるそうです。[茂木亮]

定例会の雰囲気

今回の定例会もご好意により新中野の目黒鍼療院で開かれました。初めて、司会をフィリピンキャンプメンバーのピロ（中村博志）が行い、目黒さんの尽力もあって、終始リラックスした雰囲気の中で進行しました。これまでややもすると、年上のメンバーに遠慮した（？）態度にみえた学生メンバーが、主体性を発揮するきっかけになったのではないかと喜ばしく思いました。[笠眉彦]

トラクターを巧みに操る中西章文さん。（耶馬渓キャンプ）

FIWC関東委員会会計より

年会費は3000円です。

以下の方より年会費をいただきました。

和田昭子さん

郵便振替 口座番号 00170-2-565117
加入者名：FIWC関東委員会

郵便貯金 記号10120 番号 00170-2-565117
口座名義：FIWC関東委員会

※領収証の発行を希望される方は、その旨お知らせください。

次回の定例会　6月も開催！

2001年6月23日（土）19時から
東京・新中野「目黒鍼療院」にて

担当：中村博志　03-3317-9215
dreamcast@dream.com

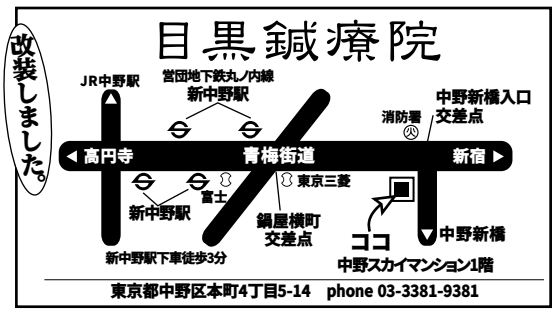
韓国キャンプの詳細ほか、夏の予定をお知らせします。
定例会に来たことのない方はぜひ足を運んでください！

フレンズ国際労働キャンプ（FIWC）関東委員会
委員長 西尾雄志

編集：茂木 亮

編集のお手伝い：笠眉彦

※PDF版では個人の連絡先を掲載しておりません。必要な場合は下記までメールでお問い合わせください。
mog@mognet.org



モグネット
www.mognet.org
ワークキャンプの写真が満載！
ハンセン病関連の本が買える！
定例会報告のPDFをダウンロード！